

知的財産戦略本部会合(第7回)

「知的財産推進計画」の改訂に向けて

2004年4月14日

キヤノン株式会社

代表取締役社長 御手洗 富士夫

1. 模倣品

模倣品は安全性の点からも問題

【例】デジタルカメラ用バッテリー



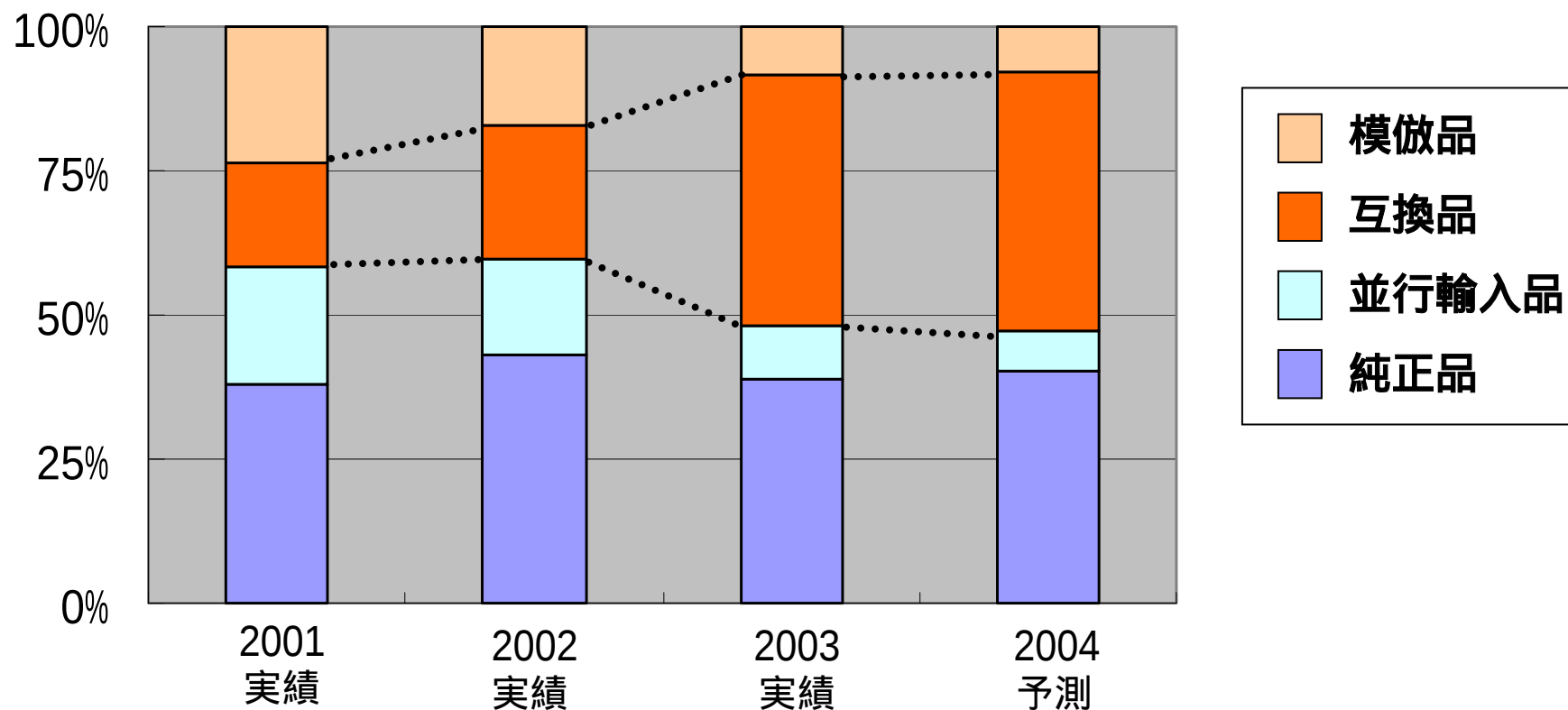
純正品

模倣品が爆発



1. 模倣品

中国インクカートリッジ市場における 模倣品、互換品の割合推移



1. 模倣品

模倣品対策への要望

(1) 海外市場

= 特許侵害する互換品「製造国」への働きかけ =
* 知的財産権の取得、活用を先進国並みに！

(2) 水際対策

= 特許権侵害品の取締の更なる強化 =
* 例えば、内部構造の分析が必要な
特許権侵害品についても対応を！

2. 知的財産高等裁判所

知財訴訟が企業経営を左右する時代

「知財高裁」への期待

技術・製品の進展に対応した、
迅速で、的確なジャッジが重要



人材の
育成

- * 専門的な技術を理解
- * ビジネス感覚に長ける
- * 法律に精通

スピーディーでフェアな裁判により、
アジアの中心的知財裁判所に！

3. 世界特許

= 各国での個別審査 =

* 企業サイド

翻訳費用、代理人費用等大変な負荷

* 各国特許庁

大量出願による審査の遅延

先行技術調査のハーモナイゼーション



- ・ 重複調査回避による負荷軽減
- ・ 調査精度の向上

審査のハーモナイゼーション



- ・ どこかの国で特許が成立すれば、
他国でも特許が成立

日本がリーダーシップを取り、

【世界特許】の早期実現を！

4. 産学連携

スピーディな共同研究開発の実現

大学

新技術の創造力

企業

事業展開力

【知財戦略】

1. 海外の主要な国々(米国、欧州、中国等)に特許出願
 - * 企業は全世界で事業展開
2. 周辺技術・応用技術・代替技術に関しても特許出願
 - * 「基本特許」だけでは、事業化が困難

現場の判断による柔軟な契約の実現